

## 附録

### 1 政策形成の過程

#### (1) 検討メンバー

	所 属	職 名	氏 名
リ ー ダ ー	総合政策部政策局参事	主 幹	小野 淳也
サブリーダー	環境生活部総務課	主 任	名畑 太智
	環境生活部総務課	主 事	下村 考弘
	環境生活部環境局環境政策課	主 事	吉田 大輝
	環境生活部環境局環境政策課	主 事	塚原 沙織
	環境生活部くらし安全局道民生活課	主 事	中山 直哉
	環境生活部文化・スポーツ局文化振興課	主 任	佐藤 麻美
メ ン バ ー	総務部総務課	主 査	安藤 あかね
	総合政策部政策局参事	主 査	武藤 健
	総合政策部地域創生局地域政策課	主 任	山田 進也
	環境生活部総務課	主 査	三ツ木 寛史
	環境生活部文化・スポーツ局文化振興課	主 査	林 淳一
	環境生活部文化・スポーツ局文化振興課	主 査	原口 ゆみ子
	経済部観光局	主 事	小林 涼太郎
	教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課	主 任	大西 生馬
	北海道博物館総務部	学芸主査	会田 理人
事 務 局	総合政策部政策局参事	主 査	山本 雄児
オブザーバー	一般財団法人北海道歴史文化財団	事業副本部長 営業部長	松井 則彰
	一般財団法人北海道歴史文化財団 事業管理部	担当課長	細川 健裕

(2) 検討経過

日 程	内 容
H28. 7. 13	○ 第1回政策形成チーム会議 ・事業概要・スケジュール・役割分担・最終報告書構成イメージの共有
H28. 7. 29	○ 第2回政策形成チーム会議 ・先進事例調査…調査先、日程、メンバーについて ・ワークショップ…日程、場所、役割分担、進め方等 ・有識者ヒアリング…ヒアリング先の選定、方法、ヒアリング内容 ・実証事業…事業案、取組の方向性等
H28. 8. 17 ～8. 18	● 道外先進事例調査 ・博物館明治村・横浜市 (視察者：下村主事、吉田主事、塚原主事)
H28. 8. 24	◇ 大学生とのワークショップ① ・アイスブレイク・オリエンテーリング・ワールドカフェ
H28. 8. 31	◇ 大学生とのワークショップ② ・未来編集会議・やるべきこと
H28. 9. 28	○ 第3回政策形成チーム会議 ・先進事例調査結果報告・ワークショップ開催結果報告 ・実証事業案の検討・中間報告の方向性
H28. 10. 5	■ 有識者ヒアリング①…(株)ACT NOW
H28. 11. 9	■ 有識者ヒアリング②…(株)JTB北海道
H28. 11. 11	■ 有識者ヒアリング③…(株)シービーツアーズ
H28. 11. 20	◆ 実証事業①…コスプレセッション in 北海道開拓の村(コスプレ撮影会)
H28. 11. 20 ～H29. 1. 31	◆ 実証事業②…Facebookによる情報発信(SNSを活用した情報発信)
H28. 12. 13	○ 第4回政策形成チーム会議 ・有識者ヒアリング結果報告・コスプレ撮影会結果報告 ・中間報告方向性の共有
H28. 12. 15	■ 有識者ヒアリング④…サッポロビール株式会社
H28. 12. 19	◎ 平成28年度プロポーザル型政策形成事業 中間報告会
H28. 12. 22	■ 有識者ヒアリング⑤…NPO法人歴史的な地域資産研究機構
H29. 1. 6	○ 第5回政策形成チーム会議 ・有識者ヒアリング結果報告・SNSを活用した情報発信の課題整理 ・実証事業③(パネル展)の概要・最終報告書構成案及び役割分担
H29. 2. 3	○ 第6回政策形成チーム会議 ・有識者ヒアリング⑥…ファンドレイジング協会北海道支部 ・実証事業③(パネル展)について ・最終報告書協議
H29. 2. 13 ～2. 17	◆ 実証事業③(パネル展での募金)
H29. 3. 16	○ 第7回政策形成チーム会議 ・実証事業②(Facebookによる情報発信)結果報告 ・実証事業③(パネル展)結果報告 ・最終報告書協議
H29. 3. 24	◎ 平成28年度プロポーザル型政策形成事業 最終報告会

## 2 会議議事録

### (1) 第1回政策形成チーム会議

○ 日 時 平成 28 年 7 月 13 日(水) 14:30~15:40 (15:40~16:30 開拓の村見学)

○ 場 所 北海道開拓の村旧開拓使札幌本庁舎研修室、開拓の村

○ 出席者	総合政策部政策局	小野 主 幹 (リーダー)	総務部総務課 総合政策部政策局	安藤 主 査 武藤 主 査
	環境生活部総務課	下村 主 事	地域政策課	山田 主 任
	環境政策課	吉田 主 事	環境生活部総務課	三ツ木 主 査
		塚原 主 事	文化振興課	原口 主 査
	エゾシカ対策 課	名畑 主 任		林 主 査
	道民生活課	中山 主 事	経済部観光局	小林 主 事
	文化振興課	佐藤 主 任	教育庁文化財・博物館課	大西 主 任
		(以上サブリーダー)	北海道博物館総務部	会田 学芸主査

オブザーバー	(一財)北海道歴史文化財団	松井 部長 / 細川 課長
--------	---------------	---------------

#### ○ 意見交換のポイント

##### ◇ ワークショップ、有識者ヒアリング、先進地視察、実証事業について

- ・ 実証事業は、基本的にはワークショップを経て出された大学生の案をベースにすることを考えている。大学生のやわらか頭に期待したい。一方、我々も実証事業の案を検討し、大学生の案とある程度リンクさせるためにも誘導は必要と考えている。
- ・ プロポーザル型政策形成事業として政策局で2事業分あわせて90万円の予算があるが、先進地視察の旅費等が大半で、実証事業はゼロ予算の予定。
- ・ 先進地視察の候補として、博物館明治村(愛知県)はどうか。民間運営だが開拓の村に似た施設であり、参考になると思う。
- ・ 有識者のヒアリングは、カテゴリ(地域振興、文化振興、インバウンド・観光)ごとに分担し、有識者1人につき、2~3人を一班としてヒアリングすることを考えている。メンバーとサブリーダーが一緒に行くイメージ。
- ・ 開拓の村でのフェンドレイジングの取組の事例としては、民間による建物の補修を昨年から行っているし、企画書の裏の絵にあるようなことは大体やっている。これと又違う形で進めていくことができれば良いと思う。

##### ◇ 開拓の村の予算について

- ・ お金を落として貰う、そういった主旨では、シニアとインバウンドがターゲットとなる。
- ・ 財団としてもシニアからお金を取りたいと思っている。しかし現状ではできないので、10年くらい前から募金箱として寄付金を募り、文化財保存基金として運用している。
- ・ 開拓の村の修繕は、道直営、指定管理者、基金、ボランティアなどを活用している。今の段階の状況について情報共有をして欲しい。
- ・ 道民活動センターの65歳以上の全額免除は、段階的に廃止するように、平成28年1定で条例を改定した。開拓の村についてもシニアの方からお金をいただくべきなのかどうか。制度的にはいただかないけど、その他のところで徴収する必然性みたいなことを整理する必要があると思う。

##### ◇ 今後について

- ・ 建造物老朽化への対応が喫緊の課題と考えているので修繕費を例にあげた。資金としては、修繕費だけでなく、役務でも良いと考えている。どのように村を活性化していくか方向性は色々あると思う。
- ・ 縛りをかけた中で事業を行っており、色々な課題があると思う。その課題を洗い出すことで、開拓の村以外にも応用が効くと考えている。道の制度についても根本的なところを

考えていくべきだと思う。

- ・ 博物館としても保護という使命があるため、色々と制約が多いが、今回の提案が、博物館の存在意義と、開拓の村の設立趣旨等に沿った形となって前進していくよう協力していきたい。

(2) 第2回政策形成チーム会議

○ 日時 平成28年7月29日(金) 14:00~15:20

○ 場所 道庁別館3階共用会議室A

○ 出席者	総合政策部政策局	小野主幹 (リーダー)	総務部総務課 総合政策部政策局	安藤主査 武藤主査
	環境生活部総務課 環境政策課	下村主事 吉田主事 塚原主事 中山主事 佐藤主任 (以上サブリーダー)	地域政策課 環境生活部総務課 文化振興課	山田主任 三ツ木主査 原口主査 林主査
	道民生活課 文化振興課		経済部観光局 教育庁文化財・博物館課 北海道博物館総務部	小林主事 大西主任 会田学芸主査

オブザーバー	(一財)北海道歴史文化財団	松井部長
--------	---------------	------

○ 意見交換のポイント

◇ ワークショップについて

- ・ 酪農学園大学と北翔大学に声をかけており、ともに8月8日の週あたりには返事をもらえる予定。
- ・ 日程はリーダー、サブリーダーの参加できる日を優先して決めたので、ワークショップに参加できないメンバーが出てくるのは仕方ないと考えている。また、第1回、第2回ともに開拓の村での開催を想定。

◇ 有識者ヒアリング、実証事業について

- ・ ヒアリング班編制は、有識者との属性を優先したためメンバーを固定していなかったが、同じメンバーの方が調整しやすいので3人固定で作り直す。来週くらいまでに作成してメンバーに示したい。
- ・ 相手方がヒアリングを受けてくれるかどうか現時点では不明。アポを取る担当部署や相手が誰なのかも分かっていない。
- ・ アポ取りに苦労しないよう、開拓の村の現状と課題などを整理したペーパーを作成することにする。班編制と同様、来週くらいまでに作成してメンバーに示したい。
- ・ クリプトン社は道のキャッチフレーズの選定にも関わっており、初音ミク等を海外に発信しているので何かアイデアをもらえないかと思い選定した。
- ・ 開拓の村では、前回会議資料の地図にあった事業はだいたい実施済。ほとんどボランティアと職員が実施している。
- ・ これまで村で実施した事業の集客実績などは、20周年、30周年記念誌に記載されているのみ。
- ・ 畑の貸付や馬耕の実演は季節柄、秋冬に実施するのは難しい。料理教室などはやる場所にもよるが面白いのではないかと。コスプレイベントは、秋冬は客が少ないので可能だと思う。冬の生活体験やユーチューブなどもやったことがある。
- ・ 畑の貸付事業は、家庭菜園などとの違いを明確化して、村で実施する意義・理由づけが必要。
- ・ 村は自然公園内なので条例の制約があり、ペットの連れ込みなどは不可。条例の制約は他にもあると思うので、もう少し具体的に教えてほしい。
- ・ 開拓の村で今、何故ファンドレイジングが必要なのかを整理する必要がある。

は。高齢者、インバウンドをターゲットとする理由についても、現状を説明するデータや資料が必要。

- ・ 実証事業（案）のファンレイジング手法のスキームを図解して、互いのメリットなどが視覚的にみえるようになれば少し整理されると思う。
- ・ 資料4は現時点ではアイデア。ここから絞り込みを行っていく。

◇ その他

- ・ 今年度はファンレイジングの事業実施よりも、課題解決のための提言を行うことに主眼を置いている。最終的なゴールは、道有施設の活性化。
- ・ 次回のチーム会議は、9月9日（金）頃を予定しているが、有識者ヒアリング、実証事業についての意見が多数出たので、状況次第では別途集まることも考えられる。

**（3）第3回政策形成チーム会議**

○ 日時 平成28年9月28日（水） 13:30～14:45

○ 場所 道庁本庁舎地下1階総合政策部共用会議室

○ 出席者	総合政策部政策局	小野 主幹 (リーダー)	総務部総務課 総合政策部政策局	安藤 主査 武藤 主査
	環境生活部総務課 環境政策課	下村 主事 吉田 主事 塚原 主事	地域政策課 環境生活部総務課 文化振興課	山田 主任 三ツ木 主査 原口 主査
	道民生活課 文化振興課	中山 主事 佐藤 主任 (以上サブリーダー)	教育庁文化財・博物館課	林 主査 大西 主任
			総合政策部政策局	山本 主査 (事務局)

オブザーバー	(一財)北海道歴史文化財団	松井 部長
--------	---------------	-------

○ 意見交換のポイント

◇ 実証事業について

● コスプレイベント

- ・ 日取りは11月20日（日）でほぼ決定。開催形式は実行委員会形式で、メインが（一社）新文化経済振興機構、道が共催、開拓の村（（一財）北海道歴史文化財団）は場所の提供という形になる予定。
- ・ イベント広告は紙媒体を使わず、（一社）新文化経済振興機構の堀口理事長がコミットしているサイトから宣伝をする予定。
- ・ 参加想定人数は150人。開拓の村はコスプレイヤーから人気がある。去年は人数が多くてパンクしたので、定員を設けないと大変なことになる。
- ・ イベントの事業名に競馬のレース等のように企業名を入れることもできる。チケットに企業広告を載せたり、協賛グッズの提供を募ってグッズに広告を入れたりすることもできる。

● パネル展

- ・ パネル展の期間は、平成29年2月13～17日の5日間の予定。
- ・ 募金箱を設置し、文化財保存基金に入れる予定。
- ・ 来年度以降、イオンやコンビニ等に募金箱を設置展開できるようにすることを検討中。
- ・ パネル展で募金の認知度を高めることが重要。特に内部（道職員）に知ってもらう必要がある。さらに150年事業に絡めて、報道も巻き込んでいければベスト。

● 広告・ネーミングライツ

- ・ SNSを活用した情報発信としてフェイスブックを立ち上げることを考えている。例えば、財団の松井部長、細川課長そしてサブリーダー6人が管理者になり、サブリーダーが

それぞれ1週間単位で毎日発信し、合計6週間情報発信をしていくこと等をイメージしている。

- ・ フェイスブックは、「いいね！」の数や閲覧数と過年度の毎月の入場者数等とのデータの比較をすること等で広報効果を検証できたらと考えている。
- ・ 労務提供型ネーミングライツ（例えば、馬車鉄道で企業PRをし、対価として周辺の環境整備等をしてもらう）だと、お金が道を通らずに、利用者のサービス向上につながる取組が可能。
- ・ 透明性が確保できれば、公募期間に定めはない。
- ・ 広報広聴課で行っている民間企業からの提案募集を活用するのも一つの手。
- ・ 募集要領等が無くても企業からの提案を受けることは可能。広報広聴課に窓口となってもらい提案を受けてもらうこともできる。

◇ 知事プレゼンについて

- ・ 知事プレゼンの最後のスライドに150年事業での活用を盛り込んでもらいたい。
- ・ 知事プレリハーサルは10月12日(水)。知事プレ本番は10月17日(月)の予定。基本的にメンバー全員参加。

(4) 第4回政策形成チーム会議

- 日時 平成28年12月13日(火) 10:00~11:10
- 場所 道庁本庁舎12階環境生活部1号会議室
- 出席者

総合政策部政策局	小野 主幹 (リーダー)	総務部総務課 総合政策部政策局	安藤 主査 武藤 主査
環境生活部総務課	名畑 主事 下村 主事	環境生活部総務課 文化振興課	三ツ木 主査 原口 主査
環境政策課	吉田 主事 塚原 主事	教育庁文化財・博物館課	大西 主任
道民生活課 文化振興課	中山 主事 佐藤 主任 (以上サブリーダー)	総合政策部政策局	山本 主査 (事務局)

オブザーバー	(一財)北海道歴史文化財団	松井 部長
--------	---------------	-------

○ 意見交換のポイント

◇ コスプレイベントについて

- ・ コスプレイベント当日は、コスプレイヤーだけでなく一般の人も入場可能であった。
- ・ コスプレのジャンルを限定しなかったが、開拓の村にちなんだコスプレに限定した方が良かったのかもしれない。

◇ SNSによる情報発信について

- ・ 開拓の村で撮影した写真をSNSにアップしようとした場合、申請手続きが必要になる。北海道博物館は展示資料に直接触れることができないから申請手続きは不要。開拓の村も建物の外観だけの写真なら大丈夫。なお、写真撮影だけでSNSにアップしないのであれば、全て問題ない。
- ・ 北海道立総合博物館条例でSNSを含めた情報発信の規制をしている。
- ・ 建物の中には職員も監視カメラも何もない。無断で展示資料に触れたり、立入禁止区域に入ることを防ぐ抑止力の意味もあって、申請手続きを行っている。
- ・ 今年度からSNSの申請に関しては、財団独自の申請書を使用して手続きを簡素化した。
- ・ 今の時代の流れにマッチしていないので、開拓の村で撮影した写真のSNS発信の手続きについて改善していく部分は大きいと思う。

- ・ フェイスブックを使用して情報発信をしていくのであれば、誰を対象に何を発信していくか、コンセプトを考える必要がある。また数多くあるSNSツールの中でフェイスブックを選んだ理由等を整理しておく必要があると思う。
- ・ フェイスブックでの情報発信について、メンバーの皆さんにも、いいね！をしていただきたい。

◇ 知事プレゼン、最終報告書作成に向けて

- ・ 知事プレゼンスライドの中に広報広聴課の協働提案募集とあるが、包括連携協定企業との連携協働に表現を変えた方が良いのではないかと。ネーミングライツも前面に出すぎている感がある。
- ・ サッポロビール博物館と既に割引クーポンなどでの連携をしているのなら、最終報告書でも、今後も連携を続けていくという形でまとめることができる。
- ・ 学生への結果報告（3回目ワークショップ）については、報告書の進捗状況を見ながら、実施するかどうかを判断する。
- ・ ファンドレイジングの有識者を招聘して講義や最終報告書の評価をしていただく件も再度検討する。

◇ 今後の予定など

- ・ 次回の第5回チーム会議は1月6日を予定。第5回会議では、中間報告の結果の整理、最終報告の方向性そして報告書作成の役割分担等について議論をする予定。
- ・ 最終報告は3月24日、1定が終わった直後くらいにできればと思っている。

(5) 第5回政策形成チーム会議

- 日時 平成29年1月6日(金)  
13:30~15:00
- 場所 道庁本庁舎地下1階総合  
政策部共用会議室

○ 出席者	総合政策部政策局	小野主幹 (リーダー)	総務部総務課 総合政策部政策局	安藤主査 武藤主査
	環境生活部総務課	名畑主事 下村主事	地域政策課 環境生活部総務課	山田主任 三ツ木主査
	環境政策課 道民生活課 文化振興課	吉田主事 中山主事 佐藤主任 (以上サブリーダー)	文化振興課 経済部観光局 教育庁文化財・博物館課 北海道博物館総務部	原口主査 林主査 小林主事 大西主任 会田学主査
			総合政策部政策局	山本主査 (事務局)

オブザーバー	(一財)北海道歴史文化財団	松井部長
--------	---------------	------

○ 意見交換のポイント

◇ SNSを活用した情報発信について

- ・ 禁止事項をチェックすることは難しく、村での勤務年数が長い者でないと、写真に写っている場所が立入禁止区域なのかが分からない。YUTORIメンバーが禁止事項をチェックする責任を持つのは荷が重いように思う。
- ・ 条例の解釈上、申請が不要であるにも関わらず、運用として申請行為を実施しているのであれば、実証事業での検証を踏まえて、文化振興課（北海道博物館）と指定管理者（北海道歴史文化財団）が管理運営上の改善を図るために再度、協議をして運用方針等を整理する必要があると思う。

◇ 開拓の村PRパネル展(2月13日(月)~17日(金))について

- ・ 建造物のパネルと伝統遊具の貸し出しは可能。動画に関しては、一般の来場者の方

が写っていると放映が難しいので工夫して欲しい。

- ・ 募金の実施については、文化財保存基金に入れるのであれば問題ない。ただ一般の来場者や報道機関等に、道自らが道立施設のための募金を集めていると誤解されることが懸念される。
- ・ パネル展を実施して道職員に何を伝えたいのか、そこを明確にして実施すべき。
- ・ パネル展の期間は1週間。受付に最低2人は必要だと思っているので、サブリーダー以外のメンバーにも役割が出てくるかもしれない。

◇ 最終報告書構成案について

- ・ ファンドレイジング・プログラムの検討に関する記述をIV章、V章に盛り込んでいきたい。
- ・ IV章の包括連携協定締結企業との協働の部分は、V章の2（7）その他で記述することとする。
- ・ III章の3「北海道開拓の村がやるべきこと」の表現は修正する。
- ・ I～IV章については、1月27日（金）までに「たたき」をWordで作成して提出すること。
- ・ V章については、ビジョンの「たたき」ができてから、メンバーに提案の作成依頼をする方向で進めるのが良いのかもしれない。V章の作成については、サブリーダー等と相談して改めて連絡する。

◇ その他

- ・ 中間報告会の時に知事から提案のあった開拓の村食堂をカフェにするという話については、文化振興課にお願いしたい。
- ・ 最終報告会は3月24日（金）の予定。昨年どおりであれば、最終報告会プレゼンの各チームの持ち時間は20分。意見交換は10～15分となる。
- ・ 次回会議は1月31日（火）の予定。

（6）第6回政策形成チーム会議

○ 日 時 平成29年2月3日（金） 14:30～16:00

○ 場 所 道庁本庁舎地下1階総合政策部共用会議室

○ 出席者

総合政策部政策局	小野 主幹 (リーダー)	総務部総務課 総合政策部政策局	安藤 主査 武藤 主査
環境生活部総務課 環境政策課	名畑 主事 吉田 主事 塚原 主事	地域政策課 環境生活部総務課 文化振興課	山田 主任 三ツ木 主査 原口 主査
道民生活課 文化振興課	中山 主事 佐藤 主任 (以上サブリーダー)	教育庁文化財・博物館課 総合政策部政策局	林 主査 大西 主任 山本 主査 (事務局)

オブザーバー (一財)北海道歴史文化財団 細川 課長

○ 意見交換のポイント

◇ 有識者ヒアリングの結果について

特になし

◇ パネル展について

特になし

◇ 報告書・V章（ビジョン・ロードマップ）について

- ・ (2)の図について、上下左右の軸の項目が相反するものではないので、このままでは想定から外れた図になる。



- ・ 今回の事業の取組を上手く表現できる図となるよう各自提案してほしい。

◇ 企画提案について

- ・ 最終報告書に記載するためには、何かしらのキーワードでくくる必要がある。
- ・ 方向性を整理したうえで、ロードマップに落とし込む形になるかと思うが、引き続き検討する。
- ・ 指定管理者としては、商品開発などには赤字になることも考えられるので慎重にならざるをえない。
- ・ 道職員が観光大使のような役割で、紹介し、来場してもらうというのが考えやすい。

◇ その他

- ・ 次回会議は3月10日頃の予定。
- ・ 最終報告書のある程度形にしたいと考えている。
- ・ 最終報告会は3月24日(金)の予定。
- ・ 随時打合せをしながら進めたい。

(7) 第7回政策形成チーム会議

○ 日 時 平成29年3月16日(木) 13:30~15:00

○ 場 所 道庁本庁舎地下1階総合政策部共用会議室

○ 出席者

総合政策部政策局	小野 主幹 (リーダー)	総務部総務課 総合政策部政策局	安藤 主査 武藤 主査
環境生活部総務課 環境政策課 文化振興課	下村 主事 吉田 主事 佐藤 主任 (以上サブリーダー)	地域政策課 環境生活部総務課 文化振興課 教育庁文化財・博物館課 北海道博物館総務部	山田 主任 三ツ木 主査 原口 主査 大西 主任 会田 学芸主査

オブザーバー (一財)北海道歴史文化財団 細川 課長

○ 意見交換のポイント

◇ 実証事業② (Facebookによる情報発信)の結果報告

- ・ イベントと併せた投稿に対してユーザーの興味・関心が高いことが分かった。

◇ 実証事業③ (パネル展)の結果報告

- ・ パネル展の来場者数は合計で1,500人を超え、寄付金も10万円以上になった。

◇ 最終報告書について

- ・ 表現方法、誤字・脱字、順番等を適宜修正。
- ・ 引用部分は全て枠で囲うことで統一。

◇ 最終報告会について

- ・ 最終報告会は、3月24日(金)14時開始(1時間半程度の予定)。後日正式通知をする。

◇ その他

- ・ 本日の第7回チーム会議が、最終会議となる予定。
- ・ 最終報告書に対する修正意見等の〆切は、3月21日(火)。

### 3 先進事例調査報告書

#### (1) 博物館明治村

##### ○ 調査概要

訪問先	博物館明治村（愛知県犬山市字内山1番地）
相手	角田係長、中野主任学芸員
日時	平成28年8月17日(水)14:30~18:30
場所	村内会議室
調査者	下村主事 / 吉田主事 / 塚原主事
調査趣旨	野外博物館の施設管理運営手法を学ぶ。

##### ○ 調査結果

###### ◇ 村のコンセプトについて

###### ・ 保存と展示に対する考え方

平成8年来客数が減少した時に、体験型に大きくシフトしたが、アミューズメント要素が強くなってしまうと、ディズニーランドと比べたらつまらないという感想が出てくることになる。博物館として満足してもらえる見せ方を模索しているところ。

###### ・ 施設が果たす役割

明確な目的をもって建物を集めたわけではないので、あまり役割は意識していない。

小学生なら小学生が、大人なら大人が理解できる言葉で伝えることで、日本の近代史に少しでも興味を持ってもらえるよう努力している。

###### ・ 入場者に求める反応

博物館としての敷居は低くて構わないと考えており、入場するまでは公園や遊園地のような感覚で来てもらえればよい。しかし漠然とした感覚でもいいから、帰るときに学んだなど感じてもらえる施設でありたい。

入場者にどのように感じてもらうかも大切だが、入場者を巻き込んだ雰囲気作りが重要。

浴衣を着てきたら入場料を500円にする日を設けているのはその一環で、職員だけが浴衣を着ていても雰囲気は出ない。

###### ◇ 「共感」の作り方

###### ・ 地元の人々や観光客などから共感、理解を得るための取組や苦労

地元の理解は、名古屋鉄道の支えによるところが大きい。

平成8年からはじめた住民登録（年間パスポート）が地元の方々の心を掴んだと感じている。

###### ◇ ファンドレイジングの活用等

###### ・ 共感してくれた人々からの支援

募金箱は村内だと5丁目にある帝国ホテルに、村外だと中部国際空港の近くにそれぞれ設置している。また村長が講演会などで出かける際にも持参するようにしている。

###### ・ 施設の老朽化への対応方法

修繕の大半は業者に依頼している。簡易な修繕（建物の色がはげた等だけ）は、建築ボランティアにやってもらっている。修繕材料は全て明治村が調達している。特殊な技術が必要なものは特にないので、もっとボランティアを活用したい気持ちもあるが、地面より2m以上の高い場所は有資格者でないと作業ができない等の職場規則がある。

ボランティアは、元建設会社社員、元大工、元タイル職人などのリタイヤ世代が多い。

建築ボランティアは20人程度。ガイドボランティアは80人程度。

###### ・ イベント開催による効果

トヨタ自動車(株)が海外客を呼ぶイベントのフィナーレで、明治村で花火をあげたいという話があった。花火はそれまで実施したことがなかったので、様々なハードルがあったが、このイベントを可能にしたことで、明治村を活用してよいのだと世間（企業）に認知してもらえたように感じる。

###### ・ コストに対する考え方

お客さまの目は肥えており、ある程度の投資をしなければいいものはいない。

- ・他の取組、やってみたいこと等

冬期間の入場者数を増加させるためにイルミネーションを行う。秋にはクイズラリーや、小学生を対象としたGPS付きのタブレットでのラリー等の実施を検討している。

#### ◇ 行政や民間企業との連携

- ・連携の実績

官公庁とのタイアップにはすごく魅力を感じているが、行政は人事異動が頻繁にあるため難しい。村には群馬県の建物があるので、群馬県のマスコットキャラクターの「ぐんまちゃん」が年に1回来てくれる程度。

民間とは様々な形で連携している。世界コスプレサミットや、去年はANAと明治村50周年のコラボキャンペーンで、お化け屋敷に入ってくれた人に抽選で旅行が当たる企画などを行った。

#### ◇ 現状と今後

- ・村の課題

去年は50周年で来客数が大幅に伸びたが、今年はその8割程度に留まっている。

夏に夜のイベントをやると、暑い昼間に行かなくてもよいと考えるお客さまもいるようだ。

春、秋と比べると冬の入場者数が少ない。

- ・直近3年度の施設入場者数

《入場者数推移》	平成25年度	平成26年度	平成27年度
入場者数	417,019人	480,583人	587,070人

大人(18歳以上)、大人(65歳以上)、大学生、高校生、小・中学生の入場者数内訳を把握しているが、特別な解析などは行っていない。

- ・ターゲットの絞り込み

企画イベントごとにターゲットを設定している。通年でのターゲットは特段設けていないが、基本的には日本人だと考えている。

#### ◇ その他

- ・PR手法

CMがメイン。季節ごとの大きなイベントについてはCMを流している。また、3年前からFacebookで情報発信している。オープン〇周年と銘打つと集客効果があるようだ。

- ・交通アクセス対策

お客さまが多く来る時間帯にバスの臨時便を出している。

## (2) 横浜市政策局共創推進室共創推進課

### ○ 調査概要

訪問先	横浜市政策局共創推進室共創推進課
相手	河村係長 / 中川職員
日時	平成28年8月18日(木) 9:00~12:15
場所	横浜市共創推進課内打合せスペース
調査者	下村主事 / 吉田主事 / 塚原主事
調査趣旨	公共の施設等を利用した民間連携事業を数多く実施。行政の立場からの関わり方を伺う。

### ○ 調査結果

#### ◇ 共創推進室の概要

- ・共創の取組を推進することになったきっかけ

H20年当時の市長の方針により公民連携を推進する部署として設置。

民間から3人の任期付き特別職を採用。担当からトップまでを1フロアに集約し、意思決定の迅速化を図った。

- ・共創という取組についての外部への発信

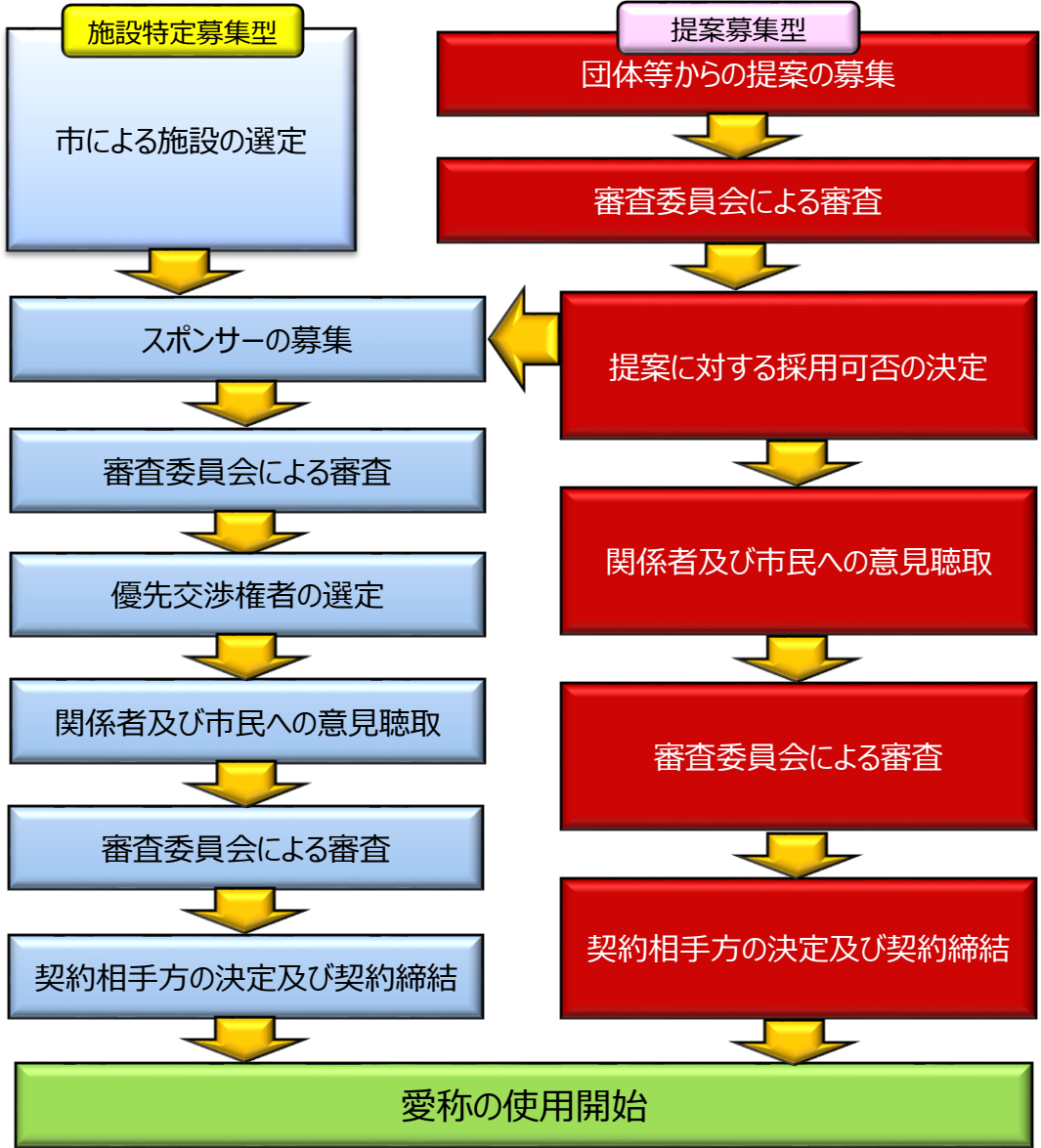
報道発表を重視し、市長記者会見に大手企業の代表を呼ぶなど、話題作りを行った。

- ・ 共創フロント（相談窓口）の業務内容、相談状況  
自由度がなくなるため要綱は特段作っていない。  
**発想提案**→**手法計画**→**事業具体化**→**評価・改善** のサイクルを回している。  
具体例として、民間から持ち込まれた企画は、まず共創推進室との間で打合せ、整理した内容を関係部署と共創推進室で打合せ、事業の可能性を探った上で、民間と関係部署を引き合わせる。  
年間 100 件ほどの相談がある。
- ・ 民間提案が実現するための要件  
「目的」、「プレーヤー」、「資源」、それらをつなぐ「手続き」が揃っていることが必要。  
逆に、時間的、物理的排他性が高いものは難しい。
- ・ 民間提案を進めるための苦勞  
法律的には可能だが、行政が「なんとなくやってはいけないと思っているもの」、「前例がないもの」などは意見の隔たりが生じやすくハードルが高いため、対話を重ねている。  
その技術を磨くために、職員向けに公民連携に特化した交渉術（対話の仕方）の研修を開催している。
- ・ 共創に取り組んで良かったこと  
様々な企業と連携できるとともに、市民の生命や財産を守る取組ができること。  
例) 迅速な災害時対応に向けた電子住宅地図の活用（ゼンリンとの連携事業）
- ・ 今後進めていきたい取組  
予算的、施設的に規模の小さいネーミングライツなど、小規模な事業の制度設計を検討中。

#### ◇ 共創推進室の取組

- ・ アプリコンテストの受賞作品やそのアイデアの活用状況  
資金的な面で課題があるため、現時点で目立ったアプリの活用はないが、将来的には可能性があると考えている。
- ・ アプリコンテストのほかに、大学生など若者からのアイデアを呼び込む方法  
大学とのつながりを活かし、テーマ型共創フロント（テーマを示し、公民連携の提案やアイデア等を募集する仕組み）への参加を呼びかけ、マンガを描いてもらうなど労務を提供してもらう代わりに、取組成果等の発表の場を設けている。
- ネーミングライツのスキーム  
平成 20 年 10 月 1 日制定（平成 23 年 12 月 1 日改定）の「横浜市ネーミングライツ導入に関するガイドライン」により手続きを行っている。  
「施設特定募集型」と「提案募集型」の 2 種類がある。  
施設特定募集型については、市が施設を選定し、スポンサーを募集、審査を行い、優先交渉権を持つ者を選定後、パブリックコメント後に再審査を行い、契約を締結する。  
提案募集型については、団体等から提案を募集し、審査を行った後、スポンサーを募集し、それ以降の審査、優先交渉権者選定、パブリックコメント、審査、契約という流れは施設特定募集型と同じ。  
いずれにしても時間的・物理的排他性を生じないよう、「機会の公平性」と「参入・選定の公平性」に重点を置いて手続きを進めており、公募を原則としている。

# ネーミングライツ導入手続きフロー図



- 高齢者やインバウンドをターゲットとした共創の取組
  - 高齢者については、資生堂と連携し、高齢者施設でメイクアップ教室を開催。
  - インバウンドについては、ぐるなびと協定を結び、市内飲食店のメニューを多言語化している。

**【参考資料】**

- ・ 共創推進の指針（平成 21 年 3 月 横浜市）
- ・ 共創 profile archive vol.02（平成 25 年度 横浜市政策局共創推進室）
- ・ 横浜市ネーミングライツ導入に関するガイドライン（平成 20 年 10 月 1 日制定、平成 23 年 12 月 1 日改定、横浜市政策局共創推進室）